【306】

氏　名（本籍）	本村美和（茨城県）（もとむらみわ）
学位の種類	博　　士（看護科学）
学位記番号	博　甲　第　6582　号
学位授与年月日	平成25年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	**中規模病院における看護管理者のコンピテンシー評価尺度の開発**

主　　査	筑波大学教授	保健学博士	安梅勅江
副　　査	筑波大学教授	博士（医学）	江守陽子
副　　査	筑波大学准教授	博士（保健学）	三木明子
副　　査	筑波大学教授	博士（保健学）	市川政雄

論文の内容の要旨

（目的）

日本においては、次世代の地域医療の中核となるための中規模病院の看護管理者がどのような資質、能力を持っているかに関する研究はきわめて少ない。病院組織の最大の集団を形成する看護職者の存在は、病院の効果的な運営のためにも必須の事項である。さらに、その管理組織の成果責任をともなう概念としての「コンピテンシー」を兼ね備えた看護管理者の育成は、特に重要である。今後の地域医療を担うための中規模病院における看護管理者に求められる「看護管理者のコンピテンシー評価尺度」の開発は、病院機能の発展と向上に大きな役割を果たすものである。

本研究は、今後の地域医療の要となる中規模病院における「看護管理者のコンピテンシー評価尺度 Nursing Administrator's Competency Assessment Scale　以下 NACAS」を開発し、その信頼性・妥当性を検証することを目的とした。

（対象と方法）

対象施設は、2010年度全国病院一覧の中から無作為抽出法を用いて、一般病床を有する中規模病院1,124施設より抽出した500施設である。看護部長または管理責任者に返信用封筒を用いて研究協力を依頼し、回答書により協力の確認と対象者を確認した。2010年12月～2011年4月に、研究協力の得られた330病院の看護部長に無記名自記式質問紙を郵送し、看護管理者2,592名（看護部長330名、副看護部長354名、病棟勤務の看護師長1,908名）への配布を依頼した。本研究は筑波大学倫理委員会の承認を得て実施した。

（結果）

1. NACASは25項目からなり、〈問題対処行動CP〉〈対人関係CP〉〈目標設定CP〉〈情報収集CP〉の4因子構成であった。
2. NACASはCronbachα係数.78以上、再テスト法による信頼係数は全項目で.92～.78であった。妥当性は構成概念妥当性、内容的妥当性により検証し確認した。
3. NACAS下位尺度と年齢、管理職在職年数等との関係に関する単回帰分析と重回帰分析の結果、NACASの構成概念は支持された。

（考察）

NACASは質問項目が25項目であり、4下位尺度から構成された。再テスト法により、再現性にかかわる信頼性は保持されていると考えられた。構成概念妥当性は職位別のNACASの得点を検討し、職位の違いによって有意差が生じたことから確認されたと考える。また、4下位尺度のうち、〈問題対処行動CP〉因子は、管理職としての問題解決に関連する役割行動を示し、〈対人関係CP〉因子は、組織における人間関係で信頼関係を形成する重要な要素としてのコミュニケーションの認識を示し、〈目標設定CP〉因子は、自分の能力や技術を組織に役立て、他者に対して強い影響力を持ち、職場に適応し、組織の中でキャリアを培ってきた中期キャリアから後期キャリアに位置する人が持つ課題であると解釈された。さらに、〈情報収集CP〉因子は看護管理者の組織を展望するために必要な能力であると解釈された。今回の調査対象である中規模病院の看護管理者の調査から、本尺度は看護管理者のコンピテンシーを評価するための指標として活用できると考える。

審査の結果の要旨

本尺度は4因子および全項目の信頼性係数も高く、内的妥当性および構成概念妥当性が確認され、十分に使用できる尺度であると考えられる。ただし、本研究は中規模病院の看護管理者のコンピテンシーという概念に着目した尺度開発にもかかわらず、病院規模別の特徴については検討されているわけではない。今後、施設規模別に看護管理者に求められるコンピテンシーを検討することによって、本研究において開発したNACASが、さらに中規模病院の看護管理者に特化した評価尺度となり得るように精錬していく必要がある。

総評として、開発の意義について一定の成果が得られ、研究の限界性を踏まえながら今後の展開の可能性について提示できており、尺度開発研究としての手順、内容、尺度の質ともに適切と判断された。

平成25年2月5日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（看護科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。